

オーストラリアビクトリア州の国立公園誕生に関する研究 ——Wilsons Promontory National Parkの公園理念とは?——

川辺 太郎

(江戸川大学社会学部 現代社会学科 4年)

序論

日本における国立公園史の定説では、19世紀に成立した国立公園はアメリカの国立公園を先例とした大面積を保護するためにつくられた営造物であるとされている。しかしながら、世界で二番目につくられたロイヤル国立公園を始め、オーストラリアで四番目までに成立した国立公園は、それぞれ独自のルーツを持っていた¹⁾²⁾³⁾⁴⁾。それはアメリカの国立公園というよりはむしろ、イギリスのカントリーパーク⁵⁾に近い概念でつくられていた。

そこで本論では五番目に成立したウィルソンズ・プロモントリー国立公園(Wilsons Promontory National Park)の成立過程を明らかにし、アメリカの国立公園理念が組み込まれているかどうか検証した。

本研究にあたっては、オーストラリアやビクトリア州の環境史やWilsons Promontoryの歴史に関する英文の図書や資料、インターネットでは主に過去に出版された新聞や記事・自然保護団体の会報のアーカイブなどの公開資料にアクセスして情報収集し、これらの文献調査を中心に行った。また、現地調査を2015年12月26日から12月31日の6日間にわたって行った。現地では、州立図書館やWilsons Promontory National Parkのビジターセンターでの資料収集のほかに、ツアーガイド等にインタビューを行った。

I 国立公園指定運動まで：第二の故郷の誕生と風景の見直し

1. 新天地での再出発

1798年、探検家のジョージ・バス(George Bass)と航海士のマシュー・フリンダース(Matthew Flinders)によって発見された。フリンダースは友人のトーマス・ウィルソン(Thomas Wilson)という商人の名前に因んで、現在のWilsons Promontoryという名前をつけた。未開拓だったこの場所は、18世紀末からヨーロッパ人によって開拓され始めた⁶⁾⁷⁾。

1851年、ビクトリア北部のベンディゴとバララットで金が見つかり、ゴールドラッシュが始まる。当時、NSW植民地からビクトリアが分離独立したこと

もあり、大規模な移民と土地開発がビクトリアを襲った。人口増加による産業開発も著しく、1856年には鉄道、1858年には電信線が初めて開通した。1860年代に入ると、土地法(Land Act)により土地の払い下げが許可された。移民を含めた市民は都市に集結し、ビクトリアは急成長した⁸⁾⁹⁾。

オーストラリアはヨーロッパやアメリカなどとは全く異なった気候や植生などを保有している。移民にとって、オーストラリアの風景は馴染みのないものだった。1861年には順化協会(Acclimatisation Society of Victoria)が設立され、ヨーロッパの風景をつくる動植物や狩猟鳥獣がオーストラリアに移入された。それ以前の順化¹¹⁾は一次産業活性化のためにスペイン原産のメリノ羊や、オーストラリアの気候に適応する野菜を輸入するものだったが、順化協会が設立されてからは拡張解釈され、種・個体数共に大幅に増加した⁸⁾¹⁰⁾。

一方で、科学の世界では1859年に王立学会(Royal Society of Victoria)が設立され、イギリスの利益のために様々な分野の研究が行われた。順化という概念は科学界でも認識され、研究の対象となっていた。1880年には学会のメンバーたちが自然愛好クラブ(Field Naturalists Club of Victoria：以下クラブと略記)を結成し、学者と自然愛好家が、主に自然(愛好)のために知見や情報の共有をする場となった⁸⁾。

1880年代は物質的な豊かさを手に入れた市民が、精神的な豊かさを求めて、新たな価値観が生まれた。鉄道が最も延長された1880年代後半¹¹⁾から、郊外の自然をそのまま描く、後にハイデルベルグ派と云われる風景画が描かれるようになった⁸⁾⁹⁾。

2. アメリカの美的価値の導入

1864年、アメリカのジョージ・マーシュ(George Perkins Marsh)は、長い期間、人間の開発によって土地が荒廃したと訴える『人間と自然』(Man and Nature)を出版した。これは北米の自然保護運動のきっかけになったが、1870年代にはオーストラリアにも輸入された。1876年に王立学会で講演され、主にビクトリアではフェルディナンド・ミュラー

(Ferdinand Jacob Heinrich von Mueller)、NSWでは友人のウィリアム・クラーク(William Branwhite Clarke)が、森林に対して功利主義的価値だけでなく、美的価値を認識して活動を始めたことで、彼らを通して少しずつ市民にも浸透していった¹²⁾。

政府は森林管理について1880年代に植物学者でもあるミュラーに助言を求めた。ミュラーは美的価値を取り入れた考え方に加え、地域ごとの気候に適した樹種を植えることや各地の森林を運営するための地方森林委員会の必要性を強く訴えた。その結果、1888年、ミュラーの理論や思想が盛り込まれた森林管理機関(Forests Department)とその支部が成立した¹³⁾¹⁴⁾。

3. 採掘と森林保護

森林管理のもう一つの根本的な理由に、鉱業利益がある。1860年代に入ると金の産出量は減少し、採掘用地も土地開発のために減少した。しかしビクトリア北部に住む鉱夫たちは、採掘用地を確保するために政府の保有林(State Forest)の設立を提案、地方政府に圧力をかけた。しかし鉱業利益のためには政府は動かず、鉱夫たちは木材の資源管理(Timber reserve)の名目で設立を推進した。その結果ビクトリア北部には多くの保有林がつくられた。保有林は以後、表面上は資源管理のためであるが、裏では鉱夫たちの私益のためにつくられ続けた。その証拠に、1880年代前半には、ビクトリア北部でいくつかの保有林の払い下げが成立している¹³⁾¹⁵⁾¹⁶⁾。

1888年には干ばつで保有林が深刻な損害を被った。ベンディゴやバララットに住む鉱夫たちは、利益の損失(表向きには資源の損失)であるとして、北部森林保全同盟(Northern District Forest Conservation League)を結成し、森林法案(Conservation and Timber Bill)を政府に提案した¹⁷⁾。それが議会を通過するように、1889年の総選挙の候補者に、森林保全を方針に掲げるよう説得した¹³⁾。

以上のように、ゴールドラッシュから採掘を生業とする者にとって、採掘地の確保はとても重要であり、鉱夫たちの本音と建前の構造によるロビイングで多くの森林が確保された。当時、居住地や放牧地拡大によって森林が減少しており、天然資源の確保は政府にとっても有益となるため、保有林は木材管理の森として地位を確立した。

II 1898年の国立公園指定まで：市民の利益と自然保護の対決

1. 広大な自然を守るために

クラブの結成から4年後の1884年12月、メンバー

のジョン・グレゴリー(John Burslem Gregory)はクラブの仲間と共にWilson Promontoryへ出掛けた。1885年の会報にはその様子が詳細に報告されている。特にグレゴリーは「将来的には多くの自然愛好家や風景愛好家が訪れる場所になるだろう。」と述べた。さらに、コーンウォール(Cornwall)によく似た岬であるとも述べ、故郷の地を思わせる風景であることを強調した¹⁸⁾。

一方、1887年7月8日、土地大臣のジョン・ドウ(John Lamont Dow)に対して、イギリス人のベイリー夫人(Mrs. Gordon Baillie)からスカイ島の住民1,000人をWilsons PromontoryとCorner Inletに定住させる申し入れがあった。7月16日、この提案に対しジェームズ・パーバス(James Liddell Purves)がWilsons Promontoryの多様な自然と海岸風景を称賛し、一方で内陸部の移動の困難さを述べた。パーバスは雄弁なことで知られ、1872年にオーストラリア出生者組合(Australian Natives Association)に参加し、若者からの支持を得ていた。7月20日にはグレゴリーがパーバスに同意し、「Wilsons Promontoryは花崗岩質で耕作には向かず、草の状態が悪く年々馬たちが痩せ劣っているように見える。さらに牧草は海の影響で塩害を受けていて定住には不適である」と述べた。その上で定住ではなく観光地としての価値が十分にあり、将来的には動植物を絶滅から保護することと観光との両方の役割を持つ、アメリカの“national park”のようになることを願うと述べた。土地大臣はグレゴリーたちに傾倒し、定住問題は時間と共に姿を消した⁷⁾¹⁹⁾。

この定住問題がきっかけで、1887年8月のクラブの会議で改めてグレゴリーは、Wilsons Promontoryを国立公園として保護することを提案した。加えてWilsons Promontoryは海岸、山、森の風景が傑出していること、既得権がないこと、南部鉄道によって将来的にアクセスが良くなることなどが国立公園にふさわしいとして、土地大臣に請願することが決まった。1888年2月21日と1890年5月7日の2回にわたってWilson Promontoryをレクリエーション、動植物の保護、そして漁場の保護の目的で国立公園に指定する請願書を土地大臣に提出し、直接意見も投じた。彼らは、1872年設立のアメリカのイエローストーン国立公園、1879年設立のNSWのロイヤル国立公園、1887年に国立公園の土地として贈呈されたニュージーランドのトンガリロ^[2]に続く、新しい国立公園がビクトリアでできることを期待していた。1888年の請願では水産業との緩衝のために指定面積は減るだろうと回答したが、具体的な施策は発表されなかった。1890年

の請願では、森林管理機関設立後の保有林をつくるという政府の指針とクラブの要求が一致した。土地大臣は Wilsons Promontory National Park という名前での保有林をつくり、この地の管理に適当な規則をつくると約束した¹⁹⁾²⁰⁾。

1890年の改正土地法では、「保有林では大きさに関わらず、土地の所有が許されず、総督の許可を取らなければ、動物の放牧は許されない」と明記されている。Wilson Promontoryを保有林として指定するならば、動植物の保護はできると考えられたのだろう。しかし、実際の成立には1890年代後半まで時間を要した。その最も大きな要因は、1890年代の社会変動であろう。

2. オーストラリア社会の転換期

1880年代までは経済が好調だったが、1890年のペーリング恐慌の波がオーストラリアにも流れ込み、1891年には金融恐慌を引き起こす。ビクトリアは不動産負債が急増し、さらに資金調達が困難となる。その結果、いくつかの銀行が倒産し、1892年3月までメルボルンだけで21の会社が破産した。ビクトリアからの人口流出も著しくなった。そうした中、イギリスからの経済的信用は徐々に落ちていった¹¹⁾。

1888年にはビクトリア北部で、1895年ごろから1903年ごろまで、オーストラリア東部で広範囲・長期間にわたって干ばつ(Federation Drought)が続いた。ビクトリアでは地方の農業が甚大な損害を被り、経済回復にも大幅な時間を要した。特にギップスランドではブッシュファイアが多発したり、洪水が起きたりするなど大変な被害がでた²¹⁾。

一方、1890年代は連邦結成という考え方が社会で一般的となっており、その基盤にあった理念が平等主義である。平等主義は経済や政治において実利主義をもたらし、同時に競争社会で勝ち残る個人主義を排除して、弱者を救済する共生理念である。

平等主義では、「機会均等の信念、オーストラリアではすべての人々がよい人生を営む権利があるとする確信」の意味を持ち、これは植民地住民の希求だった。これは白人に対しての言葉であり、1850年代から存在していた、中国人ひいては有色人種を排除する白豪主義の本格化にもつながった⁸⁾²²⁾。

一方 Wilsons Promontory では、すでに運用されていた1884年の土地法により一部の土地がリースされていた。そのため、国立公園に指定するためにそれらの土地を取り上げる必要があった。また、南部鉄道が1892年に開通した後は、Wilsons Promontory の Sealers Cove で製材が再開、ディンゴの密猟、

Singapore Peninsula に錫鉱石採掘者が集中するなどが起きた。最終的には1898年の7月7日付けで官報に一時的な指定が発表され、陸域の91,000エーカーが国立公園となった⁷⁾。

このように、1890年代は、ビクトリアだけでなく、オーストラリアにとって転換の時期であった。承認直後の政権交代は国立公園指定の流れを停滞させ、南部鉄道の開通は Wilsons Promontory への人々の侵入を促すことになった。干ばつによって経済回復が遅れ、経済破綻や都市の拡大によって、イギリス帝国からの自立を求めた。同時に平等主義によって動植物や景観を公平に市民に与えるという、オーストラリア人独特の考え方も1898年の国立公園成立を促した理由の一つであったといえるだろう。

3. アメリカを訪れた人たち

土地大臣のドウは1883年、灌漑を学ぶため『ジ・アーガス』(The Argus)のジャーナリストとしてカリフォルニアを訪れた。ドウはその時、グランド・キャニオンとイエローストーン国立公園を訪れている。1885年には水道大臣のディーキンが同行し、再びカリフォルニアを訪れている²³⁾。

「Picturesque Victoria」を書いたヴァガボンド(The Vagabond = John Stanly James)は1883年のコラム中で、ニュージーランドの美しい湖をアメリカのヨセミテやイエローストーンのようなnational parksにして、破壊から守ることが良いだろうと述べている²⁴⁾。しかし彼は1886年に、イエローストーンには行ったことがないし、行く気もないと述べている²⁵⁾。

新聞では、1872年にNSWの『シドニー・モーニング・ヘラルド』(Sydney Morning Herald)で、1879年にビクトリアの『ジ・アーガス』でそれぞれ初めてイエローストーン国立公園が紹介されている²⁶⁾²⁷⁾。1880年代にはいくつかの新聞に自然に関するコラムが投稿された。1881年から始まる『ジ・アーガス』の「Our Bush Hut on Olinda」や1884年から始まる『ジ・エイジ』(The Age)の「Picturesque Victoria」などである²⁸⁾。

さらに、1884年には『ジ・エイジ』がイエローストーン国立公園の広告を3月20日から6月9日まで投稿し続けた²⁹⁾。このほかにもイエローストーン国立公園について書かれた記事はいくつも存在する。これも同様に、多くのビクトリアの人々がアメリカの国立公園の存在を知ることができた。これらは美しい風景や観光地としての紹介であり、動植物の保護やその必要性などは書かれていない。しかし、国立公園の存在自体は一般市民も容易に知ることができたのではない

だろうか。また1880年代は、物質的な豊かさを手に入れた市民が精神的な豊かさを求めている時代である。市民に風景の美的価値が受け入れられた要因として、これらの影響も挙げられるだろう。

Ⅲ 20世紀のWilsons Promontory：法制度のない国立公園管理の実態

1. 自然保護の取組

1898年の指定後、在来の動植物を守るため、狩猟法(Game Act)によってヘビ以外のすべての生き物の採取、殺生を禁止した。しかし国立公園内や入り口付近で行われていた製材や放牧に本格的な対策をしなかった。さらに政府は1904年、国立公園の指定を取り消して、土地を1,000エーカーごとに区切って放牧地にすることを決めた⁷⁾。

この提案に対し、クラブはその土地利用を食い止めるために再び代表団をつくり、鳥類学者連盟(Ornithologist's Union)、動物学及び順化協会(Zoological and Acclimatisation Society)、王立地理学会、オーストラリア出生者組合管理委員会に支持された。その提案に最も関心を持ったのは、当時Royal Society of Victoriaの会長だったボルドウィン・スペンサー(Walter Baldwin Spencer)である。彼は国立公園の指定運動には表立って関わっていなかったが、関心は持っていた。彼は、政府の計画を阻止しても、それは短期間の効果しかなく、国立公園を正式に指定する必要があると考えた。彼は、議長に元裁判長のジョン・マッデン(John Madden)、発表者には公共事業への反対運動をしていた活動家のエドモンド・フィッツギボン(Edmund Gerald FitzGibbon)を選び、彼自身は幹事を務めた³⁰⁾³¹⁾³²⁾。

スペンサーは確実に国立公園に指定させるために、パブリックミーティングとは別に政府に訴えかけることにした。彼はスチュアートとマッデンと共に、たった1週間で複数の民間団体^[3]に掛け合った。その内容は明らかではないが、団体の権力者の弱みを突き、それらの団体はスペンサーを支持した³⁰⁾。

パブリックミーティングが行われ、首相のベント(Thomas Bent)と、土地大臣のマーレイ(John Murray)が出席した。会議の中では、フィッツギボンが正式なNational Parkにすることを主張し、会議の中でNSWの国立公園とアメリカの国立公園^[4]のスライドを映写した。そして1905年1月25日、Wilsons Promontoryの75,000エーカーを正式に国立公園指定することが発表された⁷⁾³¹⁾。

2. 杜撰な公園管理

ついに国立公園が正式に指定された。しかし、当時の政府は環境保護という考えが薄く、多くの動植物が絶滅の危機に瀕していた。そこでスペンサーは有力者を結集して提言し、政府を説得した結果、1908年7月8日に26,000エーカーが国立公園に追加された。また、8月18日付けでWilsons Promontory National Parkを管理する委員会が設置された。委員会設置に続き、10月7日にLand Actに則ってWilsons Promontory National Park専用の規則がつくられた。これには利用時間、禁止事項、委員会の設置や運営などが記載されている。最初の国立公園指定の提案から20年を費やし、ついにWilsons Promontory National Parkは適切に管理される状態までになったのである⁷⁾³⁰⁾。

しかし、Wilsons Promontory National Parkはオーストラリアの動植物を保護するためにつくられたことから、20世紀前半にはオーストラリアで数が少なくなっている動植物が、Wilsons Promontoryの外から持ち込まれた。順化協会が先導し、1909年から1941年までに、記録があるものだけで哺乳類25種、爬虫類2種、鳥類9種が少なくとも270個体、植物も記録があるだけで60種が植えられた⁶⁾。

第一次世界大戦では沿岸に信号所が建設されたが、それほど大きな影響はなかった。しかし第二次世界大戦時には、軍がWilsons Promontoryを占拠することを提案し、管理委員会はやむを得ず承認した。その結果、砲台や通信施設などが建設された⁷⁾。

このように、世界大戦での軍事利用や、オーストラリア大陸の生態系を守るために他地域から動植物を入れるなど、原生自然の保護とはかけ離れた公園管理が行われていた。

Ⅳ 結論：折衷型として成立した国立公園

Wilsons Promontory National Parkは、ゴールドラッシュによる都市拡大に伴う土地の開拓で著しく減少した森林を守るため、資源管理と美的価値のもとに保護されて成立した国立公園であった。これはWilsons Promontory National Park以前に成立した国立公園のように、都市の周辺で市民の多目的利用のために成立したイギリスのタイプというより、アメリカの国立公園のように大規模面積の自然を州有地として指定し、動植物の保護とレクリエーションの2つを目的とするという理念が組み込まれていたという点に関しては、アメリカの国立公園の理念の気配を感じるタイプとして成立した。

1. Wilsons Promontory National Parkの成立理由

(1) 資源管理と産業への寄与

Wilsons Promontoryは地盤が火成岩でできているため定住には向かず、代わりに森林資源として政府は認識した。森林の有用性と美的価値を認識していた植物学者ミュラーが助言したことで、彼の概念が加わったForests Departmentが設立した。以降、大規模面積の資源管理用地に適した森林をいくつか指定し、政府はWilsons Promontoryが保有林に値すると認識した。しかし、ミュラーの概念は完全には政府には浸透せず、政府の考えた森林保全は、1860年代から鉱業界からのロビイングで起こった木材管理としての森林という概念の延長である、功利主義的な自然保護となったのである。

(2) 生き物たちの楽園

ゴールドラッシュ以降の都市のスプロール化は人々を異常なまでに豊かにした。しかし同時に、急激な都市化によって非常に多くの植物がなくなり、様々な動植物が狩猟用、産業用、観賞用などの理由でヨーロッパから持ち込まれた。それらは繁殖しながら各地に広がり、オーストラリアの在来動植物は生息地を脅かされた。オーストラリアの動植物を守るため、Wilsons Promontoryを最後の砦的存在にした。連邦成立と時期が重なったことから、これ以上オーストラリアの動植物を減らすことは我が国の損失であるという意識が生んだ行動であったといえる。

(3) オーストラリア人の新しい故郷として

19世紀後半のオーストラリアの人々は、多くがイギリスやヨーロッパからの移民であり、故郷の風景が心に根強く残っていた。しかし、ゴールドラッシュをきっかけとしたオーストラリアの経済的な自立、イギリスからの脱却という考え方も併せ持っていた。特に移民の制限による白豪主義的な結束や平等主義によるオーストラリア社会の公正さの追求は、後者を象徴するものである。一方で経済成長が生んだ心の余裕は、人々の関心を余暇へと向かわせた。1880年代に芸術家や作家たちによって描写された、郊外の自然や国外の壮大な自然風景は、大衆がオーストラリアの広大な原風景に美的価値を見出す要因となった。

このように、イギリスから脱却したい反面、同化しようとするアンビバレントな考え方が存在した。Wilsons Promontoryはイギリスと似た岬の風景というだけでなく、オーストラリアらしさを代表する風景や生態系を有しているという2つの特徴があるために、人々に受け入れられたと考えられる。

2. アメリカの国立公園の理念との関係

大規模面積を指定し、動植物の保護とレクリエーションを目的としていることはアメリカの国立公園のコンセプトを基にしたものである。しかしながら、これはアメリカの国立公園の理念を参考したに過ぎない。

まず、アメリカの営造物の国立公園のように国有地にすることは、当時州ごとに政府が稼働していたオーストラリアでは到底できなかったのではないだろうか。そのため、アメリカのような国の財産としての価値は、政府や市民に浸透していなかったと考えられる。

そして、オーストラリアにおいては、19世紀半ばから順化の概念のもと、ビクトリアには多数の移入種が存在した。Wilsons Promontoryにはすでに内陸から入り込んでいた動植物がいたが、さらに国立公園に指定された後にも数十種の動植物が持ち込まれた。したがって、この公園は「オーストラリアの動植物の保護」という目的を掲げたが、アメリカの国立公園の原生・在来の動植物を保護するための公園理念とは明らかに異なっていた。

これまでのオーストラリアの国立公園と同様に、イギリスのカントリーパークに近い概念が、アメリカと異なる公園理念の理由となるだろう。実際にカントリーパークが成立したのは20世紀中盤であるが、半自然を保護し、多目的利用を重視した目的でつくられている。Wilsons Promontoryの場合、政府管理の下、資源管理用地や世界大戦の軍の拠点などに利用された。今回は設立後の利用方法には多く触れていないが、多目的利用はアメリカの自然保護思想が詳しく説明されず、イギリス的な考え方が残ったことが原因だろう。

このように、Wilsons Promontory National Parkは大規模面積を動植物のために保護し、レクリエーション利用もされるという考え方がありつつも、イギリスの公園概念が残ったまま成立した、アメリカとイギリスの理念の折衷型といってよいだろう。

補 注

[1] 植民地の第一次産業を活性化させることと、植民地間の移入による動植物の価値の向上のために1854年にフランスで誕生した概念。= Acclimatisation (Acclimatization)

[2] トンガリロ国立公園のことだが、当時はまだ国立公園にするために先住民から政府へ土地が贈与された状態であった。

[3] 鳥類学者連盟、王立地理学協会、オーストラリア

出生者組合、動物学及び順化協会、ビクトリア漁師組合 (Victorian Angler's Association)、図書館理事会 (Trustees of the Public Library)、展示会ビル (Exhibition Buildings)。

[4] どの国立公園を指しているのかは明確でない。

引用・参考文献

- 1) 親泊素子, 2008, 「オーストラリアの国立公園成立について」『国立公園』668:23-26.
- 2) 星彰, 2007, 「ベレーア国立公園の成立過程について: 南オーストラリア最初の国立公園」江戸川大学, 2007 年度学士論文.
- 3) Brady, Anita, 1992, *A centenary history of Tower Hill*, Victoria: Conservation and Natural Resources.
- 4) Webb, John, 2001, "Eccleston Du Faur" *Historical Papers*, 1(1): 10-16, NSW: Mt Wilson & Mt Irvine Historical Society.
- 5) 池ノ上容, 1970, 「英国における自然公園制度の発展」『国立公園』247: 10-14
- 6) Meagher, David and Michele Kohout, 2001, *A field guide to Wilsons Promontory*, South Melbourne: Oxford University Press.
- 7) Garnet, John Roslyn, 2009, *A History of Wilsons Promontory National Park*, Melbourne: Victorian National Park Association.
- 8) 藤川隆男, 2004, 『オーストラリアの歴史—多文化社会の歴史の可能性を探る』有斐閣.
- 9) Clark, Manning, 1969, *A Short History of Australia*, London: Heinemann. (=1978, 竹下美保子訳『オーストラリアの歴史』サイマル出版会.)
- 10) 藤本大士, 2010, 「帝国と植民地における順化への熱狂: Osborne "Acclimatizing the world"(2000)」f*t note より, (2016年8月16日取得, http://d.hatena.ne.jp/fujimoto_daishi/20130807/1375883398).
- 11) 本間直行, 2011, 「1893 年におけるオーストラリア金融恐慌」『経済学季報』60(2): 65-91.
- 12) Prineas, Peter and Henry Gold, 1997, *Wild Places: Wilderness in Eastern New South Wales*, Australia: Katsehamos & the Great Idea.
- 13) Legg, Stephen, 2016, "Political Agitation For Forest Conservation: Victoria, 1860-1960", *International Review of Environmental History*, 2, Canberra: The Australian National University.
- 14) Taylor, Angela, 1998, *A Forester's Log: The Story of John La Gerche and the Ballarat-Creswick State Forest, 1882-1897*, Melbourne University Publish.
- 15) *Bendigo Advertiser*, 4/12/1880, (<http://trove.nla.gov.au/newspaper/article/88883002>).
- 16) *Leader*, 2/5/1881, (<http://trove.nla.gov.au/newspaper/article/196564927>).
- 17) *Bendigo Advertiser*, 6/27/1889, (<http://trove.nla.gov.au/newspaper/article/88588291>).
- 18) Field Naturalists Club of Victoria, 1886, "The Journal & Magazine of the Field Naturalists' Club of Victoria May 1885 to April 1886." *The Victorian Naturalist*, 2, pp. 150-154.
- 19) Ibid., 1889, "The Journal & Magazine of the Field Naturalists' Club of Victoria May 1888 to April 1889." *The Victorian Naturalist*, 5, pp. 3-4.
- 20) Ibid., 1891, "The Journal & Magazine of the Field Naturalists' Club of Victoria May 1890 to April 1891." *The Victorian Naturalist*, 7, pp. 16-17.
- 21) Garden, Don, 2010, "The Federation Drought of 1895-1903, El Niño and Society in Australia" *Integrating the Social and Environmental in History*, Cambridge: Scholars Publishing.
- 22) 琴野孝, 1969, 「平等主義と世界資本主義—オーストラリア強制仲裁制度の起源」『社会経済史学』35(3): 1-21.
- 23) Falvey, Lindsay and Barrie Bardsley, 1997, *Land and Food: Agricultural and Related Education in the Victorian Colleges and the University of Melbourne*, Victoria.
- 24) *The Argus*, 7/28/1883, (<http://trove.nla.gov.au/newspaper/article/85431838>).
- 25) *The Argus*, 7/10/1886, (<http://trove.nla.gov.au/newspaper/article/11565112>).
- 26) *Sydney Morning Herald*, 9/20/1872, (<http://trove.nla.gov.au/newspaper/article/13263724>).
- 27) *The Argus*, 3/31/1879, p. 5, (<http://trove.nla.gov.au/newspaper/article/5937740>).
- 28) Hutton, Drew and Libby Connors, 1999, *History of Australian Environmental Movement*, Cambridge University Press.
- 29) "yellowstone" Trove, National Library of Australia, (<http://trove.nla.gov.au/newspaper/result?q=yellowstone&exactPhrase&anyWords¬Words&requestHandler&dateFrom=1884-01-01&dateTo=1884-12-31&sortBy&lstate=Victoria&title=809>).
- 30) Mulvaney, John and J. H. Calaby, 1985, *So Much That is New: Baldwin Spencer, 1860-1929*, Melbourne University Press, pp. 259-261.

31)Field Naturalists Club of Victoria, 1905, “The Journal & Magazine of the Field Naturalists’ Club of Victoria May 1904 to April 1905.” *The Victorian Naturalist*, 21, pp. 128-131.

32)Ibid., 1906 “The Journal & Magazine of the Field Naturalists’ Club of Victoria May 1905 to April 1906.” *The Victorian Naturalist*, 22, pp. 16-17.